

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和4年7月12日（火）
- 2 確認箇所
Dタンクエリア
- 3 確認項目
Dタンクエリア連結管の取り外し状況

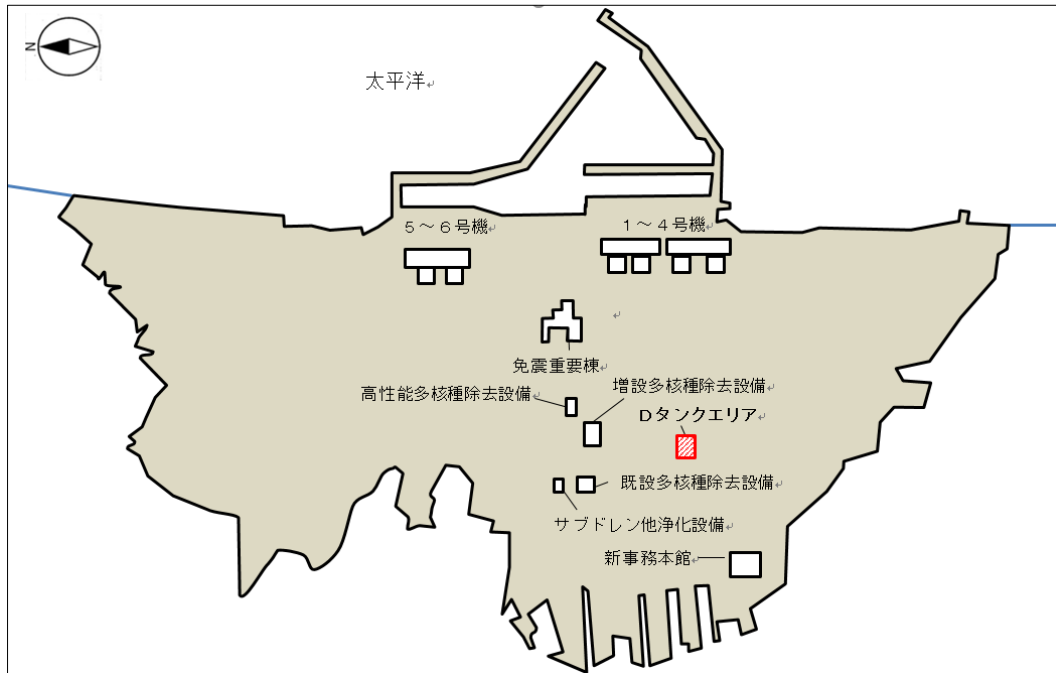
4 確認結果の概要

令和4年3月16日の福島県沖を震源とする地震によりDタンクエリア全41基中8基のタンクに最大200mmの位置ずれが発生したことに伴い、タンクとタンクを接続している連結管にも偏心や伸縮の変位が生じた。東京電力では変位量が一定範囲※を超えたもの2カ所について、漏えい防止の観点から、連結管の取り外し作業を行っており、今回、状況を確認した。（図1）

なお、前回の現地確認（3月29日）では、歪みがあった受入配管について、作業員が保温材や板金を取り外して点検していた。

- ・変位量が一定範囲を超えた連結管は2カ所とも取り外され、弁は金属製のカバーで覆われていた。また、取り外された部位から水の漏えいがないことを確認した。（写真1）
- ・地震により位置ずれが生じたタンクの連結管は保温材が外されていた。連結弁は「全閉」にされるとともにハンドル部には誤操作防止用のチェーンロックが取り付けられており、「操作禁止」の注意書きが掲示されていた。（写真2）
- ・地震により破損した雨樋配管の修繕が進んでいたが、一部未修繕のものが確認された。（写真3）

※ 安定的に機能を発揮できる目安として連結管メーカーが提示した偏心が150mm、伸縮が±50mmの範囲内であり、東京電力によれば、この変位量を超えても直ちに破断、破損は生じないとしている。



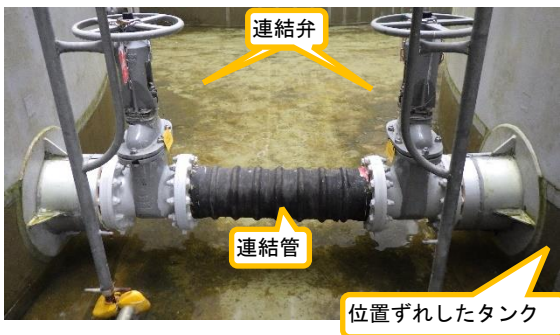
(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
連結管取り外し前の状況
(令和4年3月29日撮影)



(写真1-2)
連結管取り外し後の状況
(令和4年7月12日撮影)



(写真2-1)
保温材が外された連結管の例



(写真 2 - 2)
連結弁ハンドル部分の状況



(写真 2 - 3)
保温材が設置されている連結管の例



(写真 3 - 1)
破損した雨樋配管の例
(令和 4 年 3 月 29 日 撮影)



(写真 3 - 2)
修繕された雨樋配管の例
(令和 4 年 7 月 12 日)



(写真 3 - 3)
修繕前の雨樋配管の状況

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。